

令和6年度の研究(または活動)内容

(1) 主な研究活動

本年度は以下のような活動が進められた。

①2024.8.2 産学交流会「景観資源としての東北の生業景」(大沼・岸本ほか)

くらし、自然、生態、そして産業へという視点で、それまでの活動報告を定期的・端的に行った。

②海山里の生業の現場:干し場を含めた東北農山漁村の採取・凍み・発酵食材と生業景(岸本)

未来に残したい草原の里 100 選とトビシマカンゾウほか、自然環境にねざした保全と活用の問題に引き続き取り組んだ。主要フィールドである飛島における気候変動の影響の問題(ex トビウオ、ワカメ、アラムなど)にも直面するいっぽう、「海と日本プロジェクト」と呼ばれる海にまつわる民話のアニメ化(例 飛島「トドの恩返し」、ほかに遊佐町のサケなど)といった案件にも参画し、改めてこの種の分野の広がり、価値創出の可能性を再認識している。

③マーケティングサポート研究所では、漬物プロジェクト、森民茶房での甘酒ほか多彩な動きが展開しているが、その内容の一部は当研究所とも一定の関係性がある。

④地域文化とアート:観光との結びつき、温泉街のアートPJ、郷土芸能の継承デザイン(田中)

鐘崎店舗ホールでの地域芸能の交流発表会と面のデザイン、仙台一番町クラフトフェア:地域と店舗のかかわりに関する協力、東一番丁の歴史調査、まちあるきイベント、岐阜のアートプロジェクトなどを進めた。

⑤八郎潟残存湖の生態環境と産業史:八郎潟における生態系の再生をめざし環境学習を展開する「はちろうプロジェクト」、生業・文化を伝える小さな(クリスマス)マーケット大盛況のスピノフマーケット「秋クリ」のプロデュース支援などを進めた(菅原香織)。

⑥南三陸町ひころの里の指定管理を進め、養蚕関係を核とした地域の学びの機会を創出した(阿部)。

⑦共生サイトと生き物調査、環境省からの認証(ブランディング)、農地・集落での生物多様性調査などを進め、今見えていない自然資源の可視化、自然観察会、調査体験 生き物調査データを共生サイトのデータベースとして整える、残す、写真として生かすなどの努力をしている(向井)。

⑧科研費基盤Cを得て、スレート村の国際比較研究をどのように進めるか、その具体策を考えるため、資源量・周辺景観がもっとも卓越したエリアの一つであるスペイン・ガリシア地方、ポルトガル北部地方の視察調査を進めた(写真1)。

⑨上記に関連した国登録有形文化財建造物候補物件の具申調査、すでに国登録有形文化財建造物となっている建物の修復保全計画など、具体的プロジェクトを推進した(写真2-3)。

⑩石のまちなみ景観調査:スレート・井内石(粘板岩)、塩竈石(凝灰岩)、成田石(花崗岩)、丸森(玄武岩質安山岩)といった県内の石材資源を総覧し、その歴史と活用法、判別技術などの探求を進めたほか、文化地質学会に新たに所属して見聞を広めている(大沼・阿部・岸本・高橋ほか)。

このほか、実践・実装化を進めてきた各種プロジェクトは、下記⑤実用化件数に記した。



写真 1 ガリシア州オウレンセ県カルバジェーダ・デ・バルデオーラス | カサイヨ村のカサイヨ教会
(2024 年 7 月)



写真 2 スレート民家・石巻市北境阿部家(遠入)



写真 3 国登録有形文化財・大嶽山興福寺書院及び庫裏(中央・右)